

# 平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会（第10回） 議事概要

日 時：令和3年11月2日（火） 14：00～16：00

場 所：奈良県文化会館 多目的室

出席者：増井 正哉氏、石原 昌伸氏、魚島 純一氏、内田 和伸氏、北口 照美氏、  
清川 清氏、染川 香澄氏、立石 堅志氏、中村 孝氏、馬場 基氏、山下 進二氏

多くの利害関係者がおられることにより、委員の率直な発言に支障が生じる恐れがあるため、平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会運営要領第4条に基づき、非公開で開催。

事務局より検討状況を説明し、委員からの主な発言は以下のとおり。

## 議事（1）今年度の進捗状況について

- 適切な展示環境を確保するため、供用開始前のスケジュールに施設の枯らし期間を見込むこと。

## 議事（2）コンテンツ基本計画等（案）について

- インタラクティブな映像体験ができることを増やすべきである。
- 利用者が主体的に理解できる展示（マインズオンな展示）が大切。
- 館内動線の最後に、再度、奈良全体に視点を広げられるコンテンツがあるとよい。
- 歴史にそれほど興味のない方に、まず興味を持ってもらうことが大切である。史実に基づきながらも、楽しんでもらえる施設にすることが歴史体験学習館の役割である。
- 正倉院宝物の模造品展示は、歴史体験学習館の目玉となる。利用者には、シルクロードを通じて宝物が奈良に集まってきた理由や、現在まで保存されてきた理由を理解してほしい。
- 展示内容、イベント内容等、既存施設との連携体制を整えることが必要である。
- 既存施設と連携して、何度も来館してもらえる施設になるよう検討すること。
- 団体利用を想定することはよい。コンテンツ検討で学校の先生にヒアリングをすることも効果的。
- コンテンツの更新など、管理運営段階も想定し検討を進めていく必要がある。
- 計画段階から学芸員を交えた検討が必要である。継続して体制の充実を図ってもらいたい。
- くらし体験室のイメージが十分に固まっていないので、再度、ワーキングで議論することとする。

## 議事（3）建築基本計画（素案）について

### ① 建築基本計画（素案）

- 正倉院宝物の模造品自体に、価値を語らせる部分も必要。校倉式意匠化建物内のレイアウトは十分に検討すること。
- 校倉式意匠化建物のセットバックをして、その南側、北側2棟との間に広くオープンスペースを設けている案は、屋外イベントにとってよい。敷地内の高低差が大きくなるように注意すること。
- 校倉式意匠化建物には、高床や屋根の反りなどの意匠の意味を語って欲しい。
- 正倉院正倉南側の桁に、板を乗せて儀式をしていたなど、正倉本来の使われ方を整理することで、校倉式意匠化建物の取り入れるディテールのストーリーが整理できる。
- 中庭部分は、校倉式意匠化建物や透明性が高い外壁を用いた各部屋の見え方を確認し、広場的に使えるような計画を期待している。

### ② 世界遺産の遺産影響評価（HIA）の詳細分析（案）

- 世界遺産に設置する施設は、周囲との関係を検討することが大切である。
- 本HIAに大宮通りの風景づくりが積極的に取り込まれており、奈良の玄関口としての評価できる。
- 来年度予定している発掘調査も含め、埋蔵文化財の保護を継続して確認してもらいたい。

以上